

公立学校情報機器整備事業に係る各種計画

小菅村教育委員会

令和7年3月

【小菅村】

GIGA 端末整備計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	35	36	37	34	34
② 予備機を含む整備上限台数	40	41	42	39	39
③ 整備台数 (予備機除く)			37		
④ ③のうち 基金事業によるもの			0		
⑤ 累積更新率			100%		
⑥ 予備機整備台数			5		
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの			0		
⑧ 予備機整備率			100%		

①～⑧は**未到来**年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新の考え方)

・小菅村では令和 7 年度中に一括調達を行い、令和 8 年度から運用開始する。予備機を含め 60 台の更新を予定している。

(使用済み端末のリユース、リサイクル、処分について)

使用済み端末にあつては指導用端末、予備機等の校内での活用や村内公共施設での活用を検討し経過を見て随時処分を検討していく。

- ・指導用端末、予備機等として校内や公共施設での活用 : 60 台
- ・更新後、使用済み端末の活用状況を確認し処分台数を検討していく。

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

- ・自治体の職員が行う
- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール（予定）

令和 7 年 9 月～ 契約手続き開始

令和 8 年 3 月まで 新規購入端末調達完了

令和 8 年 4 月 新規購入端末の使用開始

使用済み端末村内使用開始

令和 9 年 4 月 活用状況から処分台数及び処分事業者選定

令和 9 年度中 使用済み端末の事業者への引き渡し

【小菅村】

ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

総学校数：2校

必要なネットワーク速度が確保できている学校数：2校（100％）

※今後も学校での課題の有無を定期的に確認する。

【小菅村】

校務 DX 計画

（１）自己点検を踏まえ、チェックリストに示されている課題や、その解決策

山梨県内で統一した校務支援システムを使用することで、教職員の異動時、進級時の書類作成等の負担軽減や児童生徒、保護者、教育委員会とのやり取りに連絡ツールを使用し様々な業務の効率化やペーパーレス化を図っている。クラウドサービスも積極的に利用し、今後も継続して DX チェックリストに示されている課題の解決に努めていく。

○教員と保護者間の連絡のデジタル化

現在は学校から保護者への連絡、学級通信、月行事予定表はマチコミメールを使用している。
今後も各種お知らせなどをデジタル化できるよう検討する。

○教員と児童生徒間の連絡のデジタル化

現在はグーグルクラスルームを使用している。今度もさらに活用できるよう検討する。

○学校内の連絡のデジタル化

校務支援システムのグループウェアやグーグルの機能を使用し、連絡をとっている。

○F A X ・押印の原則廃止への取組

村教委と小中学校間ではF A Xのやりとりはない。公印が必要な書類以外は基本的に廃止している。

○ペーパーレス化への取組についての現状

様々なツールを活用し、徐々に進んでいる。今後も電子データでのやり取りを基本としたペーパーレス化に、取り組んでいく。

（２）次世代の校務システムの導入に向けた検討について

現在、次世代の校務支援システムの以降に向け、県と市町村担当及び関係機関による協議を進めている。現行のオンプレからフルクラウドへ移行する予定となっている。

【小菅村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)等の内容並びにこれらに引き続く政府の議論も踏まえ、1人1台端末の整備、高速大量の通信ネットワーク等を活用し、子どもが主体となる学習として個別最適な協働的な学びが実現することを目指す。

2. GIGA 第1期の総括

小菅村においては、令和2年度に県の共同調達に参加して GIGA 端末の整備、校内通信ネットワークの整備を行った。それに伴い段階的に電子黒板などを導入していき GIGA 端末と連携したデジタル教材などを活用した、より分かりやすい授業を行なっていくことが出来た。

また、小菅小学校においては、東京都葛飾区のこすげ小学校や岡山県上島外小学校とオンライン交流を行うなど積極的に端末を活用した。様々な取り組みが評価され、ICTの「学校情報化優良校」の認定を受け、GIGA 端末は子どもたちの学習に不可欠な道具となっている。

GIGA 第2期においても、村内小中学校が連携し、ICTの活用をすすめていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

○1人1台端末の積極的利活用

教職員の研修を通し、ICTスキルの底上げを図ることで、授業において積極的に情報端末や ICT 環境の利用を行えるような取り組みを行う。また、それに伴い情報セキュリティに関する研修も併せて行う。

○個別最適・協働的な学びの充実

デジタル教材やデージー教科書等を積極的に活用して、児童・生徒に有った学習体制を整備することにより個別な学習指導、また協働的な授業運営を推進する。

○学びの保障

不登校児童生徒などに対して端末を活用した学習活動などの支援を行う。また、デージー教科書の活用により、障害のある児童生徒への学習の支援を行う。